

TOPICS

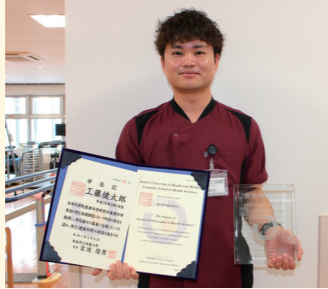
青森県立保健大学より当院職員が表彰されました！

当院リハビリテーション科の職員が青森県立保健大学より表彰されました。学業及び研究活動において、特に顕著な業績をあげた人に贈られる「最優秀学修賞」を工藤健太郎さんが見事受賞しました。また、同大の卒業生で様々な分野や地域での目覚ましい活躍、著しい功績を挙げた人に贈られる「特別奨励賞」を千葉直さんが受賞しました。おめでとうございます！

最優秀学修賞

リハビリテーション科
理学療法士 工藤健太郎さん

(青森県立保健大学大学院
健康科学研究科 博士後期課程
2025年3月修了)



このたび、博士後期課程を修了するとともに、最優秀学修賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。

博士論文では要支援・要介護高齢者を含んだ地域在住高齢者を対象に、代表的なヘルスリテラシー尺度であるHLS-EU-Q47の因子構造について検証しました。構造方程式モデリングという手法を用いて、修正因子構造モデル(改変短縮版)を提案し、その有用性を示すことができました。

リハビリテーション科療法士長の千葉直氏をはじめ、鄭先生、縣先生には、働きながら大学院で学び、臨床業務と研究活動を両立できる環境を整えていただきました。皆様のご支援がなければ、ここまで研究を進めることは叶わなかったと思います。心より感謝申し上げます。今後は、臨床での研究活動を継続しつつ、大学院で得た知識と経験を生かし、エビデンスに基づいた質の高いリハビリテーションの提供に努めてまいります。

特別奨励賞

リハビリテーション科
療法士長
理学療法士 千葉直さん

(青森県立保健大学
健康科学部 理学療法学科
第3期生)



勤務実績や職能団体での活動、県内の実習生教育への貢献等が評価されて今回の受賞に至ったようです。

「地域に貢献できる理学療法士になりなさい」という大学恩師の言葉を道標に、挫折や葛藤をしながら日々の業務に取り組んでいます。今後も研鑽を怠らず、自分とチームの能力を高め、最高のリハビリテーション科を目指して前進したいと思います。

入院患者様への面会について

入院患者様への面会は2025年4月1日現在、以下の条件で実施しております。ご来院された方は総合案内で面会の手続きをお願いします。
※高度治療病棟(HCU)の患者様を除く(別途、病棟で対応します)。

平日(月～金)
14:00～16:00
(30分以内)
予約不要

【面会者の条件】

- ・面会者は2名まで
- ・中学生以上(小学生以下はご遠慮下さい)
- ・マスクを着用できる人
- ・発熱など風邪症状がない人
- ・一週間以内にコロナ陽性者との接触がない人

※今後の状況によっては、急遽面会禁止または制限緩和となる場合があります。その際はホームページ等でお知らせいたします。

医療職員採用試験のお知らせ

当院職員採用試験を今年も6月に実施予定です。例年5月中旬から募集を受付しております。ホームページに募集要項を掲載しますので、関心のある方はぜひお見逃しなく！
医療職を志す学生の皆さん、キャリアアップを目指す既卒の皆さん、ご応募お待ちしております。また、病院見学も随時受付しておりますのでお気軽にお問い合わせ下さい。



地域連携だより「KADERU」
編集顧問 片山容一・末綱太

編集後記

青森の長い冬もようやく終わり、待ちに待った春がやってきました。桜が咲き、日が長くなり、新たな出会いや新しいことの始まりが多い春。前向きな気持ちになれるので、個人的には春が一番好きです。みなさんはどの季節が好きですか？環境変化などでストレスを感じやすい季節でもあると思います。適度にリフレッシュしながら健康的な生活をこころがけましょう。(T・A)



青森新都市病院 地域医療連携だより (かでる)

KADERU

INFORMATION FROM YUSHINKAI
AOMORISHINTOSHI HOSPITAL

2025年4月号

Vol. 39



[津軽のまほろば]
撮影 工藤明

Contents

- 新年度を迎えて 片山 容一
- 脳神経内科医が語る医学雑学 第16回
ラヴェルの病 後編 布村 仁一
- おくすり豆知識 第1回
花粉症と薬と、時々、眠気 福士 素子
- 部署紹介 コメディカルコンシェルジュ
- TOPICS

もしかして 脳卒中?! ～こんな症状があれば様子見ではなく、すぐに119番へ!～

- F**ace (フェイス) 顔の歪みや顔の麻痺
- A**rm (アーム) 腕や足に力が入らない
- S**peech (スピーチ) 言葉が出ない、ろれつが回らない
- T**ime (タイム) 症状に気付いたら至急119番!

Time is Brain (時は脳なり) …脳梗塞の治療では発症より血行再開までの時間短縮が重要です!!



新年度を迎えて

新年度、当院は、医療法人雄心会の運営する病院の一つとして、開設から9年目に入ります。今や、青森市とその周辺の医療にとって、なくてはならない存在になってきていると思います。地域の皆さんのご支援と、職員の皆さんのご活躍のおかげです。心より御礼を申し上げます。

医療法人雄心会の理事長である伊藤丈雄先生は、脳神経外科医として優れた実績を重ねてこられました。昭和62年には、函館新都市病院を開設され、脳疾患・脳卒中の分野に重点を置く病院として、函館市とその周辺の皆さんのゆるぎない信頼を得るまでに育て上げられました。

こうした実績から、当院も、脳疾患・脳卒中の分野で、この地域に新風を吹き込むに違いないと、開院する前から期待されていました。その期待に応えることができたのは、何と言っても職員の皆さんの奮闘のおかげだったと思います。

また、当院は、脳疾患・脳卒中の分野に限らず、幅広く急性期の医療を引き受ける病院としても、この地域の

皆さんに頼りにしていただけるようになってきました。こうした役割を担うことは、当院に、もう一段の飛躍をもたらすに違いありません。

当院は、信頼できる病院であるだけでなく、地域の皆さんにとって「安心できる病院」であることを目標に掲げてきました。そのためには、職員の皆さんにとっても「働きやすい病院」でなければなりません。

病院ではいろいろな職種の皆さんがチームとして働いています。働きやすい環境を整えるには、チームの一人ひとりが仲間の役割に敬意を持って、お互いの仕事への配慮や感謝を忘れないことが大切です。

新年度も、幅広く急性期の医療を担う病院として努力と工夫を重ねるとともに、地域の皆さんにとって「安心できる病院」であり、職員の皆さんにとって「働きやすい病院」であることを目指して、力を合わせていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

総長 片山 容一

連載

脳神経内科医が語る医学雑学

脳神経内科 部長
布村 仁一 先生

第16回 ラヴェルの病 後編

皆さんこんにちは。青森新都市病院脳神経内科の布村です。今回はラヴェルの病についての続きを書きます。フランス近代の大作曲家ラヴェルは認知機能は概ね保たれていたものの失語症状が進行する奇妙な疾患に罹患し亡くなりました。岩田誠先生が著書の中でラヴェルの病を「全般性痴呆を伴わない進行性失語症」（当時報告者の名前をとってメズラムと呼んでいました）と診断され世界中の神経内科医を納得させました。しかしながら岩田先生が診断されてから25年の時間が経過し、その後失語症の研究、認知症の研究が大きく進みました。現在ではメズラムという疾患名は使われず原発性進行性失語症という疾患として論じられています。この疾患は大きく3つのタイプに分けられ、さらに近年は新たな病型も提唱されておりまだ発展途上の分野とも言えます。実は脳を解剖した時の病理変化が一樣ではなく、異常に蓄積している蛋白がアルツハイマー病でみられるアミロイドβだったり、ALSでみられるTDP-43だったり、タウという蛋白だったりします。ということから原発性進行性失語症は単一

の疾患ではなくいろいろな疾患の症状として考えるのが今のところ妥当なのだろうと思います。ラヴェルは失語症だけでなく、手がうまく使えないという症状（拙劣症といいます）も認めており、私はラヴェルの病気がタウが脳に貯まる疾患、ずばり大脳皮質基底核変性症という疾患だったと考えていますが、さてどうでしょうか？

ラヴェルは当時フランス最高の脳外科医ヴァンサンにより開頭手術が行われ術後9日目に意識を回復せずに亡くなっています。開頭しただけで脳に傷はつけていません。それなのになぜ？ 当時は脳外科手術自体が未熟だったと考えられます。名医と誉が

高かったヴァンサンは実はラヴェルの手術をしたとき、脳外科手術をはじめてまだ3年しか経っていませんでした。研修医です。実際この手術についていろいろな疑問点が呈さ

モーリス・ラヴェルの墓

れています。言語の症状が主体だったので左半球に病気があると考えられるにも拘わらず、右半球を開頭したり、脳の萎縮があったので脳室に水を注入したり、この手術後なぜ意識を回復せず亡くなってしまったのか？等です。この点について当院脳神経外科の福田先生とディスカッションさせていただきました。術後の感染症の可能性が低ければ、手術操作で静脈血栓症などを起こしてしまったと考えると理解可能かもしれないということでした。実際死後解剖がなされなかったため真実はわかりません。

近年ラヴェルの生涯を描いた「ボレロ永遠の旋律」という映画が公開され、有料ですがネットで見ることができます。脚色はありますが概ね史実に基づいた映画です。ぜひ一度ご覧になって下さい。ラヴェルについてももっと語りたいこともあるのですが、それはまたの機会に。

映画「ボレロ永遠の旋律」ポスター



おくすり豆知識

第1回 花粉症と薬と、時々、眠気

薬剤科 係長
福士 素子 さん（薬剤師）



雪かきに追われた冬がようやく終わり、春らしい陽気になってきました。花が咲き、木々の緑が若草色に色づく気持ちのいい季節ですが、花粉症の方にとっては辛い時期であるかもしれません。環境省によると、2019年時点のスギ花粉有病率は33.8%で3人に1人はスギ花粉症と言われており、その数は年々増加しています。

花粉症対策としてアレルギーの薬を服用している方も多いのではないのでしょうか。アレルギーの薬を飲んで眠くなってしまった、という経験がある方もいらっしゃるかもしれませんが、この眠気はアレルギーの薬の一種である抗ヒスタミン薬の副作用によるものです。

抗ヒスタミン薬は体内のヒスタミンの働きを抑えることでアレルギーの症状を和らげてくれる薬です。ヒスタミンはアレルギーを引き起こす物質の1つですが、脳内では脳の活性化に関与している重要な物質でもあります。抗ヒスタミン薬が脳内のヒスタミンの働きを抑えてしまうことで眠気が生じてしまいます。また、眠くなるだけでなく集中力や判断力が低下することで、車の事故や仕事のミス、授業に集中できないなどにつながります。抗ヒスタミン薬の中には車の運転が禁止されているものもあるので注

意が必要です。

薬の眠気の起こりやすさは、脳への移行しやすさと脳内でヒスタミンの働きを抑える度合いによって違いが現れます。一方で、花粉症の症状に対する効果の違いは、鼻や目の粘膜にあるヒスタミン受容体への作用の違いによって現れるため、効果が強くても脳内へ移行しにくい薬であれば眠気が出にくいということになります。近年では、眠気の出にくい抗ヒスタミン薬なども開発されていますが、このような薬を使用しても個人差があります。「しっかり症状を抑えたい」、「眠気の出にくい薬がいい」など、ご自身の症状と生活スタイルに合わせて医師や薬剤師に相談してみたい方が多いのではないでしょうか。

一見厄介に思える眠気の副作用ですが、実はこの副作用をうまく利用して作られた薬もあります。ドラッグストアなどで販売されている睡眠改善薬は、抗ヒスタミン薬の一種であるジフェンヒドラミンを飲むと眠くなるという副作用を上手に利用して、寝つきをよくする薬として販売されているのです。「薬は諸刃の剣」と言われることがありますが、諸刃を上手に使ったおもしろい一例です。

部署紹介 メディカルコンシェルジュ

主任 三上 菜摘 さん

現在メディカルコンシェルジュは、女性スタッフ4名、男性スタッフ1名の計5名在籍しています。主な業務内容として、来院された患者さんの受付対応、会計、診断書依頼の受付、面会対応、落とし物預かり、環境整備、来客対応等を行っております。

受付は、病院に来院された方に対し最初に対応する部署であり、笑顔で挨拶し、来院された方が不安の無いよう丁寧な説明のご案内を心がけております。また、医療制度や各種手続き、入院、診療のルールなど疑問やお問い合わせに対して的確に丁寧に説明できるよう日々努力しております。

お身体の不自由な方、車いすの必要な方等への介助や、初めて来院され、どこに行けばいいのか不安な方には診察室や検査室への同行も行ないます。

また、患者さんが迷われたり不自由なことがないか、診察室周りを定期的にラウンドしておりますので、ご不便なことがございましたらお気軽にグレーの制服のメディカルコンシェルジュへお声を掛けて下さい。

最後に、受診の際はマイナ保険証をご活用下さい!!